

## 2026(令和8)年度 後期 法華コモンズ講座 10月より開講

# 開設講座一覧と受講の手引き

### 《 開設講座 》

●集中講座 「政治と宗教を考える集中講義」 全1回 【対面&実況】

開催日時：10月3日(土) 午後1時30分～5時30分(4時間) 講師：櫻井義秀

第1部：統一教会問題—解散命令と山上裁判

第2部：2050年の宗教未来地図—興隆する宗教と衰退する宗教(宗教二世問題の裏面)

●集中講座 「敗戦と占領 それで自由になったのか—GHQの天皇傀儡論と「国家神道」論—」

開催日時：11月28日(土) 午後1時30分～5時30分(4時間) 全1回 【対面&実況】

講師：磯前順一

●連続講座 「仏教哲学再考③—日本仏教を哲学する I」 全4回 【オンライン講座】

開講時間：水曜日 午後6時30分～8時30分

講師：末本文美士

開催日：第1回(通算17講) 10月 7日 第2回(通算18講) 11月 4日

第3回(通算19講) 12月 2日 第4回(通算20講) 1月 6日(2027年)

●シリーズ講座 《法華仏教講座》 全6回 【対面&実況】

開講時間：土曜日 午後3時30分～5時30分 ※12/26、第3回のみ午後2～4時

第1回 10月17日 「点の宗教」と「面の宗教」—書評コロキウム『一九六八年と宗教』補論 講師：小川寛大

第2回 11月14日 「日蓮と北条時頼をめぐって」 講師：坂井法暉

第3回 12月26日 「青年日蓮論—五戒・五行への注目を軸に」 講師：岡田文弘

第4回 1月23日 「法華教学における顕本論と化導論(2)」 講師：花野充道

第5回 2月27日 「源信における往生と成仏 — 一乗円宗の視点を通して —」 講師：伊奈 潔

第6回 3月 6日 「中世延暦寺における論義文献の形成過程」 講師：長谷川裕峰

●連続講座 「『法華経』『法華文句』講義」 全6回 【対面&実況】 講師：菅野博史

開講時間：月曜日 午後6時30分～8時30分

開催日：第1回 10月19日 / 第2回 11月30日 / 第3回 12月21日

第4回 1月25日 / 第5回 2月22日 / 第6回 3月29日

※受講申込は、裏表紙(12頁)の「受講申込みについて」よりお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

## 「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を立ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。

「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊的な歴史状況のなかに繰り返して「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。



## 皆様のご参加をお待ちしております！

学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。



## 法華コモンズ仏教学林 スタッフ紹介

### 【運営スタッフ】

- 理事長 西山 茂
- 学林長 布施義高
- 事務担当 澁澤光紀  
竹内敬雅
- 財務担当 竹内敬雅
- ブログ担当 林 明彦
- X (旧 Twitter) 担当 武川清明
- ビデオ班 竹内敬雅／神蔵寿観／林 明彦
- 総務担当 稲田隆広

### 【教学委員】

- 上杉清文
- 花野充道
- 菅野博史
- 寺尾英智
- 三輪是法

### 【講座担当】

- 櫻井先生集中講座 神蔵寿観／林明彦／山名隆年
- 磯前先生集中講座 澁澤光紀／武川清明／谷口智
- 末木先生連続講座 波田地克利／佐古弘純
- 法華仏教講座 西山明仁／布施義高／  
竹内敬雅／武川清明
- 菅野先生講座 松永良樹／澁澤光紀／神蔵寿観
- 配信シフト担当 西山昂希

## 【 講座会場 】

**福聚山 常円寺** 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

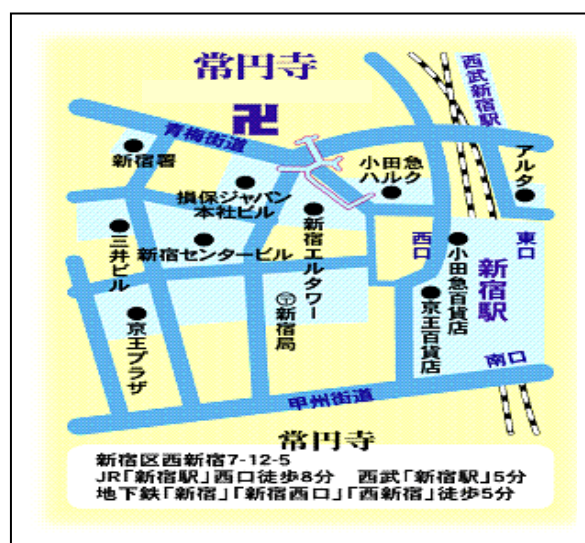
**祖師堂 地階ホール** (または日蓮仏教研究所の一階「学室」)

※講義は、【対面&実況】(会場での「対面講義」と「Zoom オンライン実況」、または【オンライン実況講義】で開講しています。講義の終了後には、「講義ビデオ配信(一か月間有効)」を行っていただきますので、日程が合わない方や遠方の方も「ビデオ受講」をすることが出来ます。

※諸状況で講義が延期・中止になった場合は、「受講料を返却」しております。

### 《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合  
⇒ 新宿駅西改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合  
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合  
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合  
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



法華コモンズ仏教学林 2026 年度 後期 集中講座 全 1 回 **対面&実況**

# 政治と宗教を考える集中講義

講師： **櫻井 義秀 先生**

開講日 **10月3日(土)** 開講：午後 1 時 30 分～5 時 30 分（4 時間）

## 【講義概要】

### ① 第 1 講義【統一教会問題—解散命令と山上裁判】

2022 年の安倍晋三元首相殺害事件以降、旧統一教会に関連する三つの裁判が進行している。①宗教法人としての解散・清算、②山上徹也裁判、③韓国における教団の韓鶴子総裁についての裁判である。この講義では、①と②の裁判を通して、政教関係のあり方、教団に翻弄された人々の人生を考える。参考書：櫻井義秀,2023,『統一教会—性・カネ・恨（ハン）から実像に迫る』中央公論新社。

### ② 第 2 講義【2050 年の宗教未来地図—興隆する宗教と衰退する宗教（宗教二世問題の裏面）】

2025 年にピューリサーチセンターが、世界の諸宗教の継承率（親の宗教から子の宗教へ）を明らかにした。25 年後の宗教地図は、過去一世代分の継承率と人口増加率から、一世代分の未来の信仰継承を予測することができる。イスラーム、ヒンドゥーは増加し、上座仏教、カトリックは教勢を維持し、大乘仏教、プロテスタントは教勢を落とすだろう。東アジアにおける仏教の趨勢を、中国・台湾・韓国・日本を比較しながら、日本仏教の将来を展望する。参考書：櫻井義秀,2022,『東アジア宗教のかたち—比較宗教社会学への招待』法蔵館。

※1 回につき、1.5 時間の講義と 30 分質疑 これを前半、後半で行う。

## 【講師略歴】

櫻井義秀（さくらい よしひで）1961 年、山形県生まれ。1987 年、北海道大学大学院文学研究科行動科学専攻博士後期課程退学、北星学園女子短期大学家政学科専任講師。1992 年、北海道大学文学部専任講師（人間行動学講座）。2002 年、北海道大学大学院文学研究科教授（社会システム科学講座）教授 北海道大学大学院文学研究院・特任教授。専門は比較宗教社会学、タイ地域研究、東アジア宗教文化論。日蓮宗教師。日蓮宗現代宗教研究所・特別研究員。立正大学日蓮教学研究所・客員所員。大学では、30 年来、カルトに巻き込まれた学生・保護者の相談に應じており、最近は一統教会問題で新聞、テレビに出演する機会などを得た。近著に、櫻井義秀,2024,『死者の結婚—慰霊のフォークロア』法蔵館。文庫版 377 頁。櫻井義秀,2024,『宗教と政治の戦後史—統一教会・日本会議・創価学会の研究』朝日新聞出版。櫻井義秀・清水香基編、2025,『東アジアのアクティブ・エイジング—サードエイジを生きる』北海道大学出版会。A5 判全 332 頁。櫻井義秀・横山聖美編、2025,『ウェルディング(死への旅路)の臨床社会学』法蔵館、A5 判全 352 頁。これ以外に計 40 冊。

【受講料】 3,000 円（オンラインも同額） / 【会場】 常円寺祖師堂地階ホール

法華コモンズ仏教学林 2026 年度 後期 集中講座 全 1 回 **対面&実況**

# 敗戦と占領 それで自由になったのかい —GHQの天皇傀儡論と「国家神道」論—

講師： 磯前 順一 先生

開講日 **11月28日(土)** 開講：午後 1 時 30 分～5 時 30 分（4 時間）

## 【講義概要】

一九七〇年、岡林信康は「それで自由になったのかい」と歌った。占領から二十年以上を経た時点で、すでに戦後日本の「自由」は問い直されていたのである。敗戦後、日本は国家神道を廃し、信教の自由を得て、天皇は人間となり、日本国憲法のもとで平和と民主主義を出発せたと語られてきた。だが、本当にそうだったのか。

本講義では、筆者の手元にある『岸本英夫日記』と、GHQ 民間情報教育局（CIE）の占領文書を手がかりに、一九四五年十二月十五日の神道指令、翌一九四六年一月一日の天皇の人間宣言、そして日本国憲法発布へと至る占領前半期を読み直す。焦点となるのは、国家神道の廃止が、単なる宗教的自由化ではなく、天皇制を統治装置として温存するための再編でもあったという点である。

GHQ は、軍国主義の温床と見なした国家神道を排除しようとした。だが同時に、天皇を日本統治の媒介として残す必要があった。そのために「国家神道」と「神社神道」は切り分けられ、現人神としての天皇は否定されながら、国民統合の象徴としての天皇は保存された。ここに、戦後日本の主体形成の大きなねじれがある。

また本講義では、岸本英夫の背後にいて、日本政府文部省と GHQ とのあいだを取り持ったと思われる南原繁にも注目する。南原らオールド・リベラリストは、占領を拒絶するのではなく、敗北を抱きしめるようにして、国体を民主化された国民国家へと組み替えようとした。その結果、日本人は本当に自由になったのか。それとも、自由という名のもとに、責任の所在を曖昧にした戦後国家を始めてしまったのか。占領とは、過去の出来事ではない。戦後日本の自由、天皇制、信教の自由、そして責任の取り方を、いまなお規定している起点である。本講義では、その見えにくい起点を文書と思想の両面から問い直したい。

## 【講師略歴】

磯前順一（いそまえ じゅんいち）：1961 年、水戸生まれ。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程中退。博士（文学）。国際日本文化研究センター名誉教授。主な著書に『近代日本の宗教言説とその系譜』（岩波書店）、『昭和・平成精神史』（講談社選書メチエ）、『石母田正』（ミネルヴァ書房）、『居場所のなさの旅しよう』（世界思想社）、『生者のざわめく世界で一震災転移論』（木立の文庫）、『新・学問のすすめ 研究者失格！』（白水社）、『京都 祈りと差別の千二百年』（垂紀書房）。

【受講料】 3,000 円（オンラインも同額）

【会 場】 常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5

# 仏教哲学再考③—日本仏教を哲学する！

講師：末木 文美士 先生

## 【講義概要】

日本仏教に拠点を置き、いかに新しい哲学を構築することができるかを考える。法華コモンズで講義してきたことを含め、これまでの私の営為を総括しながら、方法論的反省から出発して考える。テーマや対象を限定せず、仏教を中心としながらも、日本思想史・日本哲学史という観点からできるだけ幅広く捉え、最近の学界の動向にも注意を向けて、丁寧に検討していきたい。

## 《参考文献》

拙著『冥顕の哲学1 死者と菩薩の倫理学』ぶねうま舎 2018 (新版予定)

同『冥顕の哲学2 いま日本から興す哲学』ぶねうま舎 2019 (同)

同『死者と霊性の哲学』朝日新書 2022

同『霊性の日本思想』岩波書店 2025

『思想』2026年8月号 特集「転換期の思想史／哲学史」※7月下旬発行

## 【講師略歴】

末木文美士(すえき ふみひこ)：1949年、山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。現在、東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授。専攻は仏教学、日本思想史。著書に『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』(新潮文庫)、『仏教 言葉の思想史』(岩波書店)、『日蓮入門 現世を撃つ思想』(ちくま新書)、『思想としての仏教入門』(トランスビュー)、『草木成仏の思想』(サンガ)、『冥顕の哲学1、2』(ぶねうま舎)、『日本思想史』(岩波新書)、『道元 実践の哲学』(角川選書)他多数。

【講義日】全4回 時間(原則・水曜日)：午後6時30分～8時30分(Zoom配信)

|     |       |     |    |     |
|-----|-------|-----|----|-----|
| 第1回 | 2026年 | 10月 | 7日 | (水) |
| 第2回 | 〃     | 11月 | 4日 | (水) |
| 第3回 | 〃     | 12月 | 2日 | (水) |
| 第4回 | 2027年 | 1月  | 6日 | (水) |

【受講料】 1期4回分 8,000円 ※当日1回の受講料は2,000円です

※本講座は、オンライン実況講義のみでの開催です。後に動画配信もあります。

法華コモンズ仏教学林 2026 年度 後期 全6回 **対面&実況**  
**シリーズ講座「法華仏教講座」**

【日 時】全6回 原則土曜日の午後3時30分～5時30分（2026年10月～2027年3月の6回）

【会 場】新宿常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿7-12-5 寺務所 ☎ 03（3371）1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインのみ（後に動画配信）で開催する予定

【受講料】1期6回分 12,000 円 ※1回のみの受講料は 2,000 円

**第1回 “点の宗教”と“面の宗教” — 書評コロキウム『一九六八年と宗教』補論**

【日 時】2026年**10月17日（土）**午後3時30分～5時30分 **講師：小川寛大 先生**

**【講義概要】**

「宗教とは、個々の人間の心の内面を救済するためだけのものである」——。このような認識は、現在の日本で極めて一般的に語られるものである。しかし、実はそうした認識は誤りだ。宗教は確かに人の心の救済を図るための道だが、同時に社会のあり方を規定する思想でもあった。

私は2026年8月2日に法政大学で開催予定の、「書評コロキウム『一九六八年と宗教』」という行事に登壇する。1960年代の左翼革命運動のなかで、宗教がどのような働きを示し、動いたかを考えるシンポジウムである。その準備段階で感じたのは、戦後の左翼運動のなかで、それが包含するリベラル思想、個人主義は、宗教の持つ“社会的役割”をどんどん脱臭し、まさに宗教から「個人の心の内面を救済すること」以外の機能を奪い去ってしまったのではないかという問題だった。

しかし、その“革命”の結果は、今また大きな岐路に直面している。

世界規模で見れば、アメリカのキリスト教福音派や中東のイスラム原理主義の伸長など、「宗教が社会を規定する」流れには、むしろ勢いがあるようにも感じられる。今日の日本でも、いわゆる“右傾化”や陰謀論の流行などは、社会のなかの“大きな物語”を求める潮流とも呼べないか。

本講義では、近現代の日本における「社会を規定するものとしての宗教」の役割を再考するとともに、その今後の可能性に関し考えてみたい。そこでは当然、日蓮主義、創価学会などの存在を前提とした、「現代における一閭浮提広宣流布の意義、可能性」をも、問うことになる。

**【講師略歴】**

小川寛大（おがわ かんだい）：1979年、熊本県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。宗教業界紙『中外日報』記者を経て、2014年に宗教専門誌『宗教問題』編集委員、15年に同編集長。現在に至る。著書に『神社本庁とは何か』（K&Kプレス）、『池田大作と創価学会』（文春新書）、『誰が「お寺」を殺すのか』（宝島新書）など。

**第2回 日蓮と北条時頼をめぐって**

**講師：坂井法暉 先生**

【日 時】2026年**11月14日（土）** 午後3時30分～5時30分

**【講義概要】**

日蓮の一代を語るにあたり、北条時頼の存在は、はずすことはできない。

日蓮は宿谷最信等、得宗被官を通じて時頼への接触を試みていたが、日蓮の訴えは、ついぞ時頼に届くことはなかった。  
本講では日蓮のみた北条時頼とその周辺、『立正安国論』の献上をめぐる問題、また日蓮と北条時頼の面談の有無等について、詳説したいと思う。

#### 【講師略歴】

坂井法暉（さかい ほうよう）：1970 年生まれ。立正大学仏教学部卒業。千葉市立郷土博物館史料研究員・興風談所所員。論文等：「恩田信筆写本『千学集拔萃』」（千葉市立郷土博物館『研究紀要』32 号，2026 年）、「系図にみる千葉氏と金沢北条氏の一こま」（『千葉氏史料集』千葉市，2026 年）、「日蓮筆聖教紙背文書からみた千葉氏」（滝川恒昭他編『図説千葉一族』近刊）など。

### 第3回 青年日蓮論—五戒・五行への注目を軸に 講師：岡田文弘 先生

【日 時】 2026 年 12月26日（土） 午後2時00分～4時00分（この回のみ）

#### 【講義概要】

日蓮は、人間（その存在および営み）と環境世界との連関に多大な関心を寄せていた。その関心から実践面としては「災異論」や「立正安国」思想が展開し、教義面としては『法華経』における娑婆世界観や「一念三千」説（特に国土世間をめぐる諸問題）などが論じられるに至った。

こうした関心の根底には従来、天人相関説の影響などが指摘されてきたが、日蓮初期の思想を概観すると、陰陽五行説と結びついた《五戒が環境世界と連動する》という発想が重要な支柱となっていたことが窺える。この五戒および五行への注目は次第に表面からは姿を消していくものの、後期の思想（本門戒壇論など）にも依然としてその影を見て取ることができる。

本講義では、この思想変遷の軌跡をたどることをねらいとし、その起点となる初期日蓮思想の検討（著作の真偽論を含む）を中心に、日蓮仏教のダイナミズムを描き出すことを目指す。

#### 【講師略歴】

岡田文弘（おかだ ぶんこう）：1987 年、岡山県生まれ。日蓮宗教師。東京大学文学部卒業、同大学大学院人文社会系研究科博士後期課程修了。博士（文学）。ハーバード大学ライシャワー日本研究所客員研究員、早稲田大学非常勤講師などを経て、現在は身延山大学特任准教授。2023 年、日本印度学仏教学会賞受賞。著書に『法華験記の形成と思想』（勉誠社、2025 年）、『踊る菩薩たち』（左右社、2026 年）。

### 第4回 法華教学における顕本論と化導論（2） 講師：花野充道 先生

【日 時】 2027 年 1月23日（土） 午後3時30分～5時30分

#### 【講義概要】

8月1日に、石井公成先生から「本覚思想の研究史と批判仏教論争」の講義があったので、それを承けて、前半の講義では、道元・親鸞・日蓮と本覚思想との関連について解説する。

親鸞の場合は、如来等同・現世往生と本覚思想、道元の場合は、仏性内在論と仏性顕在論、本証妙修と本覚思想について説明する。次に、天台円教に基づく諸法即実相・当体全是の本覚思想、起信論に基づく真如隨縁・本覚真如の本覚思想、さらに密教の心性本覚・心性蓮華の本覚思想について説明する。

日蓮の場合、その思想が複雑なのは、天台智顗にはない、密教の曼荼羅本尊思想が見られることである。

したがって、日蓮教学を思想史学に考察する場合は、法華経の本迹二門を始覺と本覺に配する法華教学と、心性蓮華の密教教学の両方を考慮しなければならないことを説明する。

後半の講義では、日蓮の化導論について解説する。

智顗の五時の化導判は、日本に至って、密教の扱いをめぐる問題となり、台密の五時教判が成立する。

日蓮は『唱法華題目鈔』に、法華経を最勝とする台密の五時教判を説き、「法華経の本門にしては、爾前の円と迹門の円とを嫌ふ事不審なき者なり」と本門最勝の立場から約部奪釈を論じている。

また『唱法華題目鈔』には、「本尊」の語が初出する。この本尊の思想も、智顗の化導論にはなかった日蓮の化導論の特長である。智顗の法華仏教には全くその片鱗も見えない日蓮の専修唱題論と本尊論は、法華教学の展開というより、日蓮が法然思想と台密教学を受容した結果であることを説明する。

### 【講師略歴】

花野充道(はなの じゅうどう)：1950 年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士(文学)。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。単著に『天台本覚思想と日蓮教学』(山喜房仏書林、2010年)、単編著に『シリーズ日蓮第1巻・法華経と日蓮』(春秋社、2014年)、『シリーズ日蓮第2巻・日蓮の思想とその展開』(春秋社、2014年)、『シリーズ日蓮第3巻・日蓮教団の成立と展開』(春秋社、2015年)、『花野充道博士古稀記念論文集—仏教思想の展開・日蓮仏教とその展開』(山喜房仏書林、2020年)。他、論文多数。

## 第5回 源信における往生と成仏 — 一乗円宗の視点を通して —

【日 時】2027 年 2月27日(土) 午後3時30分～5時30分 講師：伊奈 潔 先生

### 【講義概要】

中国浙江省に天台山という霊峰があり、隋の時代に活躍した天台大師智顗(538-597)が確立した宗派の名として知られる。とはいえ、中国で勃興した天台と、現在日本の比叡山に伝わっている天台とは、その性格は異なる。つまり「天台」と一言でいっても、その言葉が指し示す範囲は極めて広いものがある。その理由の一つが、伝教大師最澄(766-767-822)が創始した日本天台の特質にある。たとえば浄土教の学徒は、ともすると聖道門と一括りにし、浄土門の視点から日本の顕密八宗と区分して見做すであろう。しかし、最澄や恵心僧都源信(942-1017)には、そのような発想は見られない。源信本人は多様な顔を持っているため、浄土教のみならず、天台、俱舍、因明、唯識に関する教理を重層的に理解し、数多くの文献を著している。

源信は天台学匠を貫いたが、その一方で、比叡山と決別した鎌倉期の法然や親鸞は、生涯にわたって彼を讃仰している。この点はどう理解すべきであろうか。

本講座では、法然の「選択／廃立」が生み出す以前、すなわち「円融」の視点に軸足を置いた源信における往生と成仏の仏教観を尋ねていきたい。

### 【講師略歴】

伊奈潔(いな きよし、前姓「藤村」)：1980 年愛知県生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業、同大学院文学研究科修士課程修了、同朋大学大学院文学研究科博士後期課程仏教文化専攻満期退学。博士(文学)。現在、同朋大学非常勤講師、武蔵野大学仏教文化研究所客員研究員、岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所客員研究員。専門は東アジア仏教思想、特に日本仏教思想史、天台教学、源信僧都の思想。主論文として「三一権実論争における「一乗方便」をめぐる概念とその変容—徳一の「七教二理」から「十教二理」への思想

史的展開に注目して一」『天台仏教の諸相と展開―塩入法道名誉教授古稀記念論文集―』（法蔵館、2026）、「『浄土論註』の日本的展開―源信『往生要集』の五念門説から見えてくる思想史的背景を中心に―」（市野智行編『曇鸞『浄土論註』の新研究―真宗理解の再構築のために―』（法蔵館、2024）、「源信『一乗要決』における悉有仏性説」『日本佛教學會年報―衆生いのちあるもの（二）―』（日本佛教学会西部事務局、2023）など。

## **第6回 中世延暦寺における論義文献の形成過程** 講師：長谷川裕峰 先生

【日 時】 2027 年 3 月 6 日（土） 午後 3 時 30 分～5 時 30 分

### 【講義概要】

仏教は經典解釈と実践行を双輪として発展してきました。インド・中国・日本を問わず普遍的に行われたものですが、解釈と実践の間で生じた矛盾や疑問は様々な形で僧侶集団に影響を及ぼしました。現在に残る「問答形式の論義法要」は、これらを可視的な儀式として表現したものです。本講義では、教學的研鑽の結果として生まれた膨大な論義書の中から、特に未翻刻資料群『阿弥陀房抄』に着目し、中世延暦寺における論義法要の実態について検討を加えます。実際に広学豎義の口頭試問で使用された論稿と、後進育成を目的として作成された例講問答の比較検討を行い、論義書が形成される過程に言及したいと思います。これらの検証を通じて、未翻刻資料の思想的意義について、歴史学・仏教学・儀礼研究等の枠組みにとらわれず、正しく位置付ける事を目指します。私見ではありますが、このアプローチは、織田信長の焼き討ちに端を発する資料的制約が大きい延暦寺研究へ一石を投じる研究手法であると考えます。また、当日はプロジェクターにて、延暦寺の伝統法要を写真や映像にてご紹介致します。

### 【講師略歴】

長谷川裕峰（はせがわ ゆうほう）：1979 年、岡山県生まれ。大阪大学博士後期課程修了・博士(文学)。延暦寺一山華王院住職、叡山学院准教授、大阪大学招聘研究員、比叡山高校山家寮寮監、社会福祉法人和光会理事。論考に「延暦寺別所における聖教類の保管について―『四十二字門』を中心に―」（『叡山学院研究紀要』47、2025 年）、「中古天台の学僧輩出―「私豎義」が果たした役割―」（『平安仏教学会年報』13、2025 年）など。

法華コモンズ仏教学林 2026 年度 後期 連続講座 全6回 **対面&実況**

## **「『法華経』『法華文句』講義」**

**講師：菅野 博史 先生**

### 【講義概要】

今年度の後期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの經典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいきます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。今期は巻第七下の「化城喻品」の

随文釈義の後半から学習していきます。

★教科書『法華文句』Ⅲ（第三文明社、各冊 2,530 円）※コモンズ割引価格 2,000 円（受付にて）

★『法華経』はプリントを配布します

### 【講師略歴】

菅野博史（かんの ひろし）：1952 年福島県生まれ。1976 年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984 年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994 年文学博士（東京大学）。現在、創価大学大学院教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か―『摩訶止観』正修止観章―』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経―永遠の菩薩道―』（大蔵出版）、『中国仏教の経典解釈と思想研究』（法蔵館）など多数。訳書に、『法華玄義』上・中・下、『法華文句』（Ⅰ）～（Ⅳ）、『摩訶止観』（Ⅰ）・（Ⅱ）（以上、第三文明社）、『現代語訳 法華玄義』上・下（東洋哲学研究所）、『現代語訳 法華玄義釈義』上・中・下・下二（松森秀幸と共訳、東洋哲学研究所）など多数。

【講義日】 全6回、時間（原則・最終月曜日）：午後6時30分～8時30分

第1回（第101講） 10月19日

第4回（第104講） 1月25日

第2回（第102講） 11月30日

第5回（第105講） 2月22日

第3回（第103講） 12月21日

第6回（第106講） 3月29日

【会 場】 新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

【受講料】 1期6回分 12,000 円 ※当日1回の受講料は 2,000 円

## 「『摩訶止観』講義」

対面&実況

福神研究所主催 講師 菅野 博史 先生 ※『文句』講義と同日の午後3時半より

●テキストについて ○基本テキスト：『摩訶止観』上下二冊（岩波文庫）

○参考図書：菅野 博史 著『一念三千とは何か―『摩訶止観』正修止観章―』第三文明社

※その他、必要な参考資料やレジュメはこちらで用意して配布いたします

●開催日時：「『法華経』『法華文句』講義」日と同日の、午後3時30分～5時30分

第1回（第117講） 10月19日

第4回（第120講） 1月25日

第2回（第118講） 11月30日

第5回（第121講） 2月22日

第3回（第119講） 12月21日

第6回（第122講） 3月29日

●会 場：新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

●受講料：1回 2,000 円（対面もオンラインも同額です、受講料の納入は毎回ごととなります）

※「対面は当日払い」予約が不要。／「オンライン」は予約が必要。

●オンライン（Zoom）実況の予約と受講について

① メールでオンライン受講の申込み（氏名・連絡先）をお送りください⇒ [koueizan@zenryu-ji.jp](mailto:koueizan@zenryu-ji.jp)

② 折り返し「『摩訶止観』講義の告知」欄の URL をお知らせしますので、Peatix からお申込み・受講料の納入をお願いいたします。お申し込み後は、毎月の開催案内をメールにて送ります。

主催：福神研究所 静岡県富士市今泉 1-1-1 本國寺内 FAX：0545-52-0094

## 受講の申込について

受講申込みの方は、この頁をコピーして《申込欄》に御記入頂きまして、下記の「FAX 番号」にご送信ください。  
また、当学林の「ブログ」の受講申込欄からのお申込みや、「メール」でのお申込みも受付けております。  
受講の申込みが届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたします。その手続きに従って「受講料」をお振込下さい。お振込を確認しましたら、領収書をお送りします。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせる場合もございますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ [hokkecommons@gmail.com](mailto:hokkecommons@gmail.com)

FAX 番号 ⇒ 042-627-7227 / ブログ ⇒ <https://hokke-commons.jp>

.....《 申 込 欄 》.....

《受講希望の講座の□をチェックして下さい（いくつでも結構です）

- ☐ 集中講座「政治と宗教を考える集中講義」全1回 講師：櫻井義秀
- ☐ 集中講座「敗戦と占領 それで自由になったのかい」全1回 講師：磯前順一
- ☐ 連続講座「仏教哲学再考③ 日本仏教を哲学する」オンライン全4回 講師：末木文美士
- ☐ 「法華仏教講座」（通し受講 6回分） ※ 個別の受講は下記をチェック
- 第1回講師：小川寛大 / □第2回講師：坂井法暉 / □第3回講師：岡田文弘
- 第4回講師：花野充道 / □第5回講師：伊奈 潔 / □第6回講師：長谷川裕峰
- ☐ 『法華経』『法華文句』講義」（6回） 講師：菅野博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 \_\_\_\_\_ 男・女 \_\_\_\_\_ 才 \_\_\_\_\_  
○住所 〒 \_\_\_\_\_  
○電話 \_\_\_\_\_ Fax (mail) \_\_\_\_\_

2026(令和8)年 8月16日 発行 法華コモンズ仏教学林 事務局  
192-0051 八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 042-627-7227